

前橋警察署協議会議事録

(令和7年度第3回定例会議)

開催日時	令和7年12月8日(月) 午後2時から午後3時30分までの間		
開催場所	前橋警察署 大会議室		
出席者	委員 (定数15人)	丸山会長 五十嵐委員 福島委員 井上委員 小池委員 東野委員 長津委員 奈良委員 宮田委員 渡邊委員	計10人
	警察	堀越署長 両角副署長 齊藤刑事生活安全官 三森交通官兼地域官 谷中警務課長 新井生活安全課長 白石地域課長 古谷刑事第一課長 荒館刑事第二課長 須永交通課長 横手警備課長 警務係長 警務係員	計13人
	その他		

議 事 の 概 要

1 管内概況説明 (説明者 署長)

- (1) 刑法犯認知・検挙状況 (R7.1~10月)
- (2) 少年犯罪検挙人員状況 (R7.1~10月)
- (3) 特殊詐欺認知状況 (R7.1~10月)
- (4) 交通事故発生状況 (R7.1~10月)
- (5) 110番通報受理状況警察署別治安状況 (R7.1~10月)

2 協議 (○~委員、●~署長等)

(1) 質疑、要望等

○ 知人から、就寝しているところを見計らって家に侵入され、金品が盗まれたという話を聞いた。このような被害に遭わないために、効果があるものを教えていただきたい。

〔質問〕

● 平素から戸締まりをしっかりするとともに、来訪者を記録するために防犯カメラを設置する、ガラスを割っての侵入を防ぐために窓に防犯フィルムを貼る等が有効と考える。

また、「泥棒が嫌がる4つの要素」がある。1つ目は、顔や姿を見られることで、防犯カメラの設置が有効である。2つ目は、明るく照らされることで、センサーライト等の照明器具の設置が有効である。3つ目は、警報音などの大きな音を出されることで、警報器の設置、犬の鳴き声等が有効である。4つ目は 侵入に時間がかかることで、窓ガラスフィルムや補助鍵を設置することが有効である。

平素からの心構えとして資産状況、個人情報、家族の情報等を他人に教えないことが重要で、警察官をかたる詐欺被害も多くなっているため、疑わしい場合には、一度切って正しい警察署の電話番号にかけ直して確認していただきたい。〔回答〕

○ 秋田県ではクマの出没に警察では対応しきれないとも聞くが、前橋警察署ではクマの出没情報にどのような対応をしているのか。〔質問〕

● クマの市街地への出没防止や出没した際の排除を含むクマの保護管理は、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」に基づき県及び市町村の事務とされているが、警察においても、先月国家公安委員会規則が改正され、警察官がライフル銃を使ってクマを駆除できる運用が始まっている。

前橋警察署では、クマの出没情報を認知した際は、前橋市を始めとする関係機関・団体と連携しながら、安全確保の呼びかけや避難誘導、警戒活動等を行うことにより、地域住民の安全確保を最優先に対応している。

具体的には、クマ被害の可能性がある判断した場合には、上州くん安全安心メール等を活用して、情報発信を行うとともに、前橋市や教育機関等へ速やかに情報共有し、迅速な情報発信に努めている。

また、人身被害の発生を防止するため現場周辺において警察車両による警戒活動を行い、車載マイク等を活用するなどして、地域住民等に対する注意喚起を行っている。実際にクマが市街地に出没した場合には、前橋市と緊密な連携を図りつつ、状況に応じて市民生活の安全と平穏を速やかに確保するなど適切な対応を行っていききたい。〔回答〕

○ 昨今、外国人による犯罪や国外免許保有者による交通事故等をニュースやSNSで目にするが、前橋警察署での状況はいかがか。〔質問〕

● 外国人による犯罪について、暫定値であるが、刑法犯及び特別法犯を見ると、本年10月末現在で、県内では総検挙人員3,152人のうち来日外国人は334人、来日外国人が占める割合は10.6%となる。平成28年中は総検挙人員4,956人のうち来日外国人は256人、来日外国人が占める割合は5.2%であった。前橋警察署管内では、本年10月末現在で、総検挙人員352人のうち来日外国人は29人、来日外国人が占める割合は8.2%となる。平成28年中は総検挙人員547人のうち来日外国人は11人、来日外国人が占める割合は2.0%であった。県内及び前橋警察署管内ともに、来日外国人による犯罪は増加傾向にあると言える。

当署における来日外国人の検挙事例は、空き家を対象とした侵入窃盗事件、出入国管理及び難民認定法違反の不法滞在等がある。外国人、日本人の別なく犯罪に対しては、これまで同様、徹底検挙の姿勢で臨む。

● 外国の免許からの切替えにより日本の免許を取得した外国人運転手による交通事故件数に関する統計はないが、県内における外国人運転手による交通事故件数は、10年前の平成27年は年間657件であったところ、本年は10月末現在で662件発生しており、前年同時期と比べて103件増加している。特に、東毛地域での増加が顕著となっている。

前橋警察署管内では10年前は年間43件であったところ、本年は10月末現在で59件発生しており、前年同時期と比べて3件増加している。

全国的には、本年5月に埼玉県内において外国の免許の切り替えを行った中国国籍男性による飲酒ひき逃げ事故が発生したほか、三重県内の高速道路ではペルー国籍男性による逆走事故が発生するなど、外国免許の切替手続きの際の住所確認や審査内容の厳格化のきっかけとなる重大交通事故が発生している。

前橋警察署管内では重大交通事故の発生はないものの、県内では外国人による無免許運転、飲酒運転、ひき逃げといった、悪質な違反を伴う交通事故が発生している。

こうした中、当署では犯罪を犯した外国人を検挙する一方で、外国人が犯罪者や被害者にならないよう、共生施策の推進も念頭に、日本語学校や企業における交通安全教育や防犯指導を積極的に行っているところであり、今後も継続していききたい。

(2) 答申事項

前回定例会議で「男女共同参画の推進」及び「人が育つ職場環境づくり」について委員に諮問したところ以下の答申がなされた。

ア 男女共同参画の推進について

- ・ 相談対応や犯罪被害者支援等の分野では、女性の特性を活かした活躍が期待でき

ると考えられる。多種多様な業務の中、女性の力が発揮できる場面や女性の方が適した業務もあると思うので、適材適所に配置する。

- ・ 男女共同参画を推進する上で、特に男性幹部が果たすべき役割は大きいと考えるため、女性職員への配慮や理解に関し、積極的かつ継続的に取り組む。一方、女性職員についても、警察組織を担う一翼であることを自覚する。このように職員たちの意識改革を行う。
- ・ 男性職員の育児休業取得率が高水準であることは評価できる。今後は、利用者の増加に伴い、他の職員の業務負担が増加することがないように、人事配置の調整や業務の合理化・効率化等により育児休暇等を取得しやすい環境づくりを推進する。
- ・ 出産・育児期間は、警察官としてのキャリアの中でも、昇任試験や現場経験を積んで実力を身につける時期と重なると思われる。そのため、こうした職員に対して昇任意欲や現場経験を補うための研修を行うなど、サポート制度の充実強化をする。
- ・ 若手職員による説明会や意見交換会の開催、インターンシップ制度の導入等、警察を身近に感じ、女性にとっても魅力ある職場であることをアピールできる取組を推進する。

イ 人が育つ職場環境づくりについて

- ・ 人が育つ職場は、職員が安心して挑戦できる風土が基盤であり、上司や先輩が積極的に声をかけるなど、良好なコミュニケーションの下で若手職員が失敗を恐れずに学べる職場環境が不可欠である。現在、前橋警察署で実施している「茶話会」や「自己紹介」は、人間関係の醸成や連帯感の強化につながる良好な取組であるため、こうした取組を今後も継続する。
- ・ 若手職員の指導に当たっては、世代特有の多種多様な価値観を持つことを理解しつつも過度に事務的になることなく、業務の必要性や手順等をしっかりと説明するなど、特性を踏まえた指導を推進する。その上で、警察組織の良き伝統も受け継ぐ精強な警察官の育成を目指す。
- ・ 警察組織では、警察学校における採用時教養等、研修制度が充実していることは評価できる。一方、最近では、目的がはっきりしないまま就職する者も見受けられることから、年齢の近い先輩を活用したメンター制度の導入等、将来のビジョンや些細な不安等について、継続的に相談することができる環境を整える。

また、職場教養の推進に当たっては、若手職員が主体的となるものや成功体験を重ねることができる施策を実施するなど、若手職員の承認欲求が満たされ、モチベーション向上につながるような取組を推進する。

3 連絡

今回の定例会議を、令和8年2月27日（金）に開催する予定とした。